

# さとにきたら ええやん

上映会

監督・撮影:重江良樹 音楽:SHINGO★西成 プロデューサー・構成:大澤一生(『隣の人の『フリーダ・カーロの遺品』一石内都、織るように』) 編集:辻井潔(『隣の人の『イラクチグリスに浮かぶ平和』)

音響構成:渡辺丈彦(『ルンタ』『妻の病 レビー小体型認知症』) 制作協力:神吉良輔(ふとっちょの木)、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力:ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力:小谷忠典

助成:文化庁文化芸術振興費補助金 企画:ガーラフィルム 宣伝・配給協力:ウッキー・プロダクション 製作・配給:ノンデライコ 2015 | 日本 | 100分 | カラー | 16:9 | 5.1ch | DCP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」。  
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー!

日時:令和8年2月1日(日)14:00~16:30

場所:鶴瀬コミュニティセンター ホール

定員:200名(事前申込) 参加費:無料



# いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「子どもの里」。「さと」と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「子どもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



## わたしはあんたの味方やで! いま 現在、求められている“居場所”の原風景



「子どもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「子どもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いがつまつたSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたかく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「子どもの里」の“取り組み”が、これからを歩む私たちに問いかけるものとは—？

### 「子どもの里」とは？

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「子どもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

### 子どもたちの遊びと学び生活の場です

誰でも利用できます。  
子どもたちの遊びの場です。  
お母さん お父さんの休息の場です。  
学習の場です。  
生活相談 何でも受け付けます。  
教育相談 何でもできます。  
いつでも宿泊できます。  
緊急に子どもが一人ぼっちになつたら…  
親の暴力にあつたら…  
家がいやになつたら…  
親子で泊まるところがなかつたら…  
土・日・祝もあいてます  
利用料はいりません



参加ご希望の方は、電話または右のフォームよりお申し込みください。  
(お申し込み期限：1月28日（水）まで)

☎ 子ども未来応援センター：049-252-3774 (受付時間 平日8:30-17:15)

主催：富士見子ども・若者の居場所応援ネット・富士見市（子ども未来応援センター）



<https://forms.gle/W9Parhd1zf42KeaaA>